

も く じ

舞鶴市の概況

■ 舞鶴市の概況	1
■ 舞鶴市の推計人口	1
■ 舞鶴市のあゆみ	2
■ 地名の由来	2
■ 20世紀のあゆみ	2

災害史

■ 舞鶴市の災害史	3
-----------	---

組織編

■ 舞鶴市の消防機構	9
■ 舞鶴消防のあゆみ	10

総務編

■ 一般会計予算に対する消防予算（当初予算）	19
■ 令和2度消防予算（当初）の内訳	19
■ 人口・世帯数と消防予算	19
■ 消防職員の現況	20
■ 職員年齢状況	21
■ 職員勤続年数状況	21

消防団編

■ 消防団員配置状況	22
■ 消防団員平均年齢調べ	23
■ 消防団員平均勤続年数調べ	24
■ 消防団機械器具配置状況	25
■ 消防団機関表彰歴	26

予防・危険物編

■ 防火対象物及び査察の状況	27
■ 中高層建築物の状況	28
■ 消防同意の状況	28
■ 消防用設備等の設置状況	28
■ 防火管理	29

■ 防火管理に関する講習	30
■ 防火指導等の実施状況	30
■ 危険物規制の概要	31
■ 危険物施設の許可・完成検査等	32

警防編

消防活動

■ 火災概況・累年比較	33
■ 消防団管轄区域別火災発生状況	34
■ 火災の発生状況	35
■ 過去5年間の主な出火原因	36
■ 過去5年間の住宅火災における出火箇所と死者及び負傷者の発生状況	36
■ 消防事故	37
■ 消防事故の発生件数（累年比較）	37

消防機械及び水利等

■ 消防機械の現勢	38
■ 令和元年度導入車両	38
■ 消防用資機材の現況	39
■ 消防水利の状況	40

救急救助編

救急活動

■ 救急出動状況	42
■ 救急出動状況（月別）	43
■ 救急出動状況（累年比較）	43
■ 年齢別搬送人員	44
■ 曜日別出動状況	44
■ 時間別出動状況	44
■ 病院別搬送状況	44
■ 応急手当上級・普通救命講習及び救急講習実施状況	45
■ 救急用資機材の現況	46

救助活動

■ 救助出動状況（前年比較）	48
■ 救助出動状況（月別）	49
■ 救助出動状況（累年比較）	49
■ 救助用資機材の現況	50

通信指令編

- 覚知区分別災害通報件数調べ 52
- 災害区分別・管区別災害通報件数調べ 52
- 高機能消防司令センターの主な構成機器 53
- 無線設備の現況 54
- 119番通報から出動までの流れ 55
- 消防緊急通信指令施設を利用した災害情報等の伝達について 56

防災編

- 舞鶴市災害対策（警戒）本部設置状況（令和元年中） 57
- 備蓄物資配備一覧表 58
- 原子力防災資機材配置状況 59
- 気象情報発表状況（令和元年） 60
- 高潮被害集計表 61
- 消防・防災に関する応援協定の締結状況 62
- 舞鶴市防災行政無線設備 65

自主防災編

- 少年消防クラブ 66
- 自衛消防隊 66
- 自主防災組織 67
- 市民に対する防災啓発事業 72

防災センター編

- 防災センター利用者集計表 73
- 防災センター団体等利用状況調査表 73



■ 舞鶴市の概況

【位置】

舞鶴市は本州のほぼ中央部、日本海が最も深く湾入したところにあります。京都府の北東部を占め、京阪神から100km圏に位置します。

若狭湾に湾口を開いた舞鶴湾は、波静かな天然の良港を形成しており、また約120kmに及ぶ海岸線一帯は、入り江と岬が美しく交差したりアス式海岸で若狭湾国定公園に指定されています。〔東経135度10分～29分 北緯35度23分～43分〕

【人口と世帯数】（令和2年4月1日現在＝推計）

人口78,911人で世帯数は34,156世帯となっております。

【面積・地勢】

舞鶴市域の内平野のほとんどは河川流域で、平地面積は非常に少なく、大部分が青葉山、三国岳、弥仙山などの山々と丘陵からなっています。また、河川は市域の西部に縦貫する由良川（総延長146km）のほか、伊佐津川、祖母谷川などの中小河川が市内各地に流れています。〔市域：東西29.7km南北37.0km・面積：342.1km²〕

■ 舞鶴市の推計人口

（令和2年4月1日現在）

区分	人口			面積 (km ²)	世帯数
	総数	男	女		
舞鶴市	78,911	39,235	39,676	342.1	34,156

■ 舞鶴市のあゆみ

海とともに歩み発展してきた舞鶴の歴史は、多くの遺跡が物語るように縄文時代にさかのぼります。弥生時代の遺跡や古墳も数多く存在します。

16世紀末に、細川幽斎と忠興の父子が田辺城を築いて以来、西地区は城下町として発展。東地区は明治34年（1901）に海軍鎮守府が設置されてから、軍港として発展してきました。

昭和13年、西地区は舞鶴市として、東地区は東舞鶴市としてそれぞれ市制を施行。そして昭和18年5月27日に両市が合併し、現在の舞鶴市が誕生しました。さらに昭和32年には加佐町を編入、市域が拡大しました。

以来、海という自然の恵みと、交通網整備や国際交流、各種イベントなど、個性あるまちづくりを進めています。

■ 地名の由来

明治2年（1869）の版籍奉還の後、田辺藩は城の別名“舞鶴城”から舞鶴藩となり現在の地名となりました。

■ 20世紀のあゆみ

